

すわみつえ通信

No.326 2024年8月5日

日本共産党鴻巣市議会議員
諒訪 三津枝



子どもたちの声を聴きに



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに

7月25日(木)は文教福祉常任委員会で、午前中は中学生のSDGs未来会議の傍聴、午後は市内放課後児童クラブと高校に伺い、交流しながら意見交換をさせていただきました。

市内中学校8校から選出された各3名のグループが、地球環境や高齢社会の課題をパワーポイントなど駆使してプレゼンテーションをしました。よく研究し提言を発表しました。

放課後児童クラブでは子どもたちと絵本を読んだり、カードゲームをしたりしながら、「鴻巣市のどんなところが好き?」「こうだったらいいのに」など、質問に答えてもらいました。

高校では、日頃の学校生活や進路のことなど真剣に話し合うことができました。

今後、市が進めていく「こども計画」「子ども権利条例」に活かしていきたいと思います。

大間調整池増設住民説明会を聞いて



鴻巣市雨水管理総合計画で

近年の全国的に頻発するゲリラ豪雨や線状降水帯並びに台風などによる大きな被害状況を踏まえ、2021年(令和3年)3月に「鴻巣市雨水管理総合計画」を策定しています。

事業スケジュール

2024年度(令和6年度)中に都市計画決定の変更を行い整備は、1つの調整池ごとに事業認可を取得し進めていく予定となっています。

通信今号は12日との合併号です

愛の賛歌を高らかに
【俳句コーナー】
パリ・オリヤ
瑠璃子

7月31日、8月3日に田間宮生涯学習センターで開催された「西部第3排水区雨水整備事業における大間雨水調整池増設」の住民説明会に地域の方と足を運びました。

既設調整池は

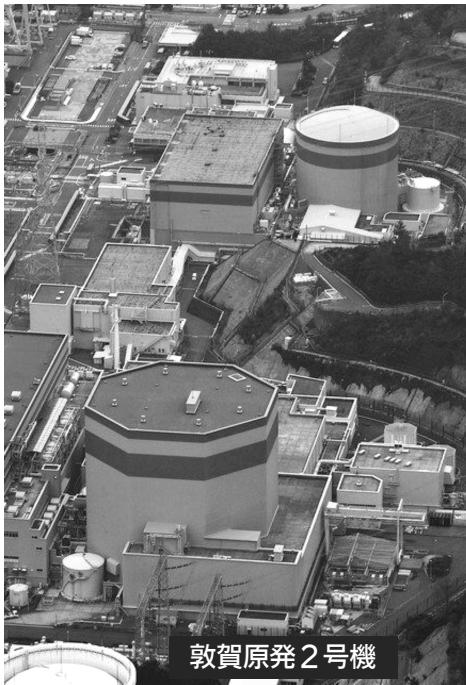
現在設置されている大間雨水調整池は2017年(平成25年)3月に築造され、面積約8,700m²、深さ約3.8m、貯留量は約28,300m³となっています。荒川の水位が低いときは荒川へ自然排水し、荒川の水位が上がりゲートを閉じた後はポンプ施設で強制排水を行い、それ以外の流量を調整池で貯留する仕組みとなっています。

新たな調整池の場所は

調整池の候補地は、既設の調整池付近に整備することが、施工性や完成後の維持管理においても効果的であり、また効率的であることから増設の箇所を選定しています。新たに3つの調整池を計画しており、10万m³の貯留が可能とのことです。

通信No.323でご紹介した絵本「悲しみのゴリラ」に通信読者の方から図書館で貸出予約の手立てができたとご連絡をいただきました。読みたい一冊ですね。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。
(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口



敦賀原発2号機

敦賀原発不適合 リスク直視し廃炉せよ

日本原子力発電が再稼働を目指す敦賀原発2号機(福井県)が、原子力規制委員会の審査会合で、原発の新規制基準に適合しないと結論付けられた。原子炉直下に活断層があることを否定できないとした。東京電力福島第1原発事故を踏まえ作られた新規制基準は、原子炉などの重要施設が活断層の真上にあってはならないと明記している。これらに照らし、規制委はきょうにも、再稼働の審査「不合格」を決定する。

2012年に規制委が発足して以来、27基の原発が審査対象となつたが、不適合判断は初めてとなる。地震リスクが排除できない以上、妥協してはならない一線にほかなるまい。審査の焦点は、原子炉の北300メートルにある「K断層」の活動性と、それが原子炉の直下を走る「D断層」と連動するかどうか、という点だった。規制委が現地調

査でK断層の活動性を指摘したのに対し、原電は、K断層は動かず、D断層とも連動しない、と反論したが、規制委は「原電の説明に明確な証拠はない」として退けた。事業者が原発の案遠征を証明できなければ、再稼働が認められないのは当然だ。

そもそも原電は15年に再稼働に向け審査を申請したものの、資料に誤りが千力所以上見つかり、20年にはデータの無断書き換えも判明した。審査が2年間中断し、原発運転の資質があるのかさえ疑われるありさまだ。原電は調査を続ける意向だが、審査を引き延ばしたい思惑が透けて見える。現に抱える震災リスクを直視し、速やかに廃炉を決断すべきである。大手電力9社と電源開発(現Jパワー)が設立した原電は、原発の電気を売る卸事業者だ。電力会社が基本料金と購入費を支払い、電気料金に反映されている。

敦賀原発2基のうち1号機は既に廃炉作業中で、東海第2原発(茨城県)は規制委の審査に合格したが、地元自治体の反対で再稼働の見通しは立っていない。福島原発事故以来、発電をまったくしていないが、基本料金収入で経営が維持してきた。事業性も運営能力も疑問符が付く中で、大手電力が丸抱えで支えることは、各電力利用者の理解を得られまい。地震列島での原発立地の困難さを改めて示した。安全を最優先した判断が揺らいではならない。

【京都新聞 社説 8月2日付】

エリア拡大中

おお、あなたは北里柴三郎さん。一昨日の夜、セルフ式の給油所でガソリンを入れると、払い出されたお釣りの千円札に見慣れない肖像が2枚交じっていた。珍しいのは今のうちだけ、と分かっていても、やはり静かに感動▲「使わないで」とイヤイヤしているように見える…と一部で評判、ホログラム印刷の“首振り”ももちろん試してみた。県内の銀行ATMでも切り替えが進んでいるようだ。渋沢栄一・津田梅子・北里の新紙幣は、あすでデビューから1カ月▲「レジや両替機の対応で百万円単位の出費でした」と知り合いの企業経営者が渋い顔で教えてくれた。新紙幣の「経済効果」は、そうした痛みの積み重ねでもできている▲なるべく長く財布に滞在してほしいが、物価高の出口が見えない昨今だ。「新紙幣は逃げ足が速い」—そんな“悪評”が立つのも時間の問題かもしれない。肖像の3人には何だか気の毒なタイミング▲日銀の追加利上げで為替が円高に振れ、株価は急落した。通貨の国際的価値が回復したのに景気の先行きは不安視されている。経済は難しい▲ところで…。新紙幣との対面に妙に興奮したおかげで、レシートを取らずにスタンドを出てしまった。次回使える値引きのクーポンと一緒に印字されている。帰宅後に気づいた。痛い。

【長崎新聞 8月2日付】